

## PK205 5. ITER 研究計画参画方法の合意形成へ向けた提言

### ▪ ▪ Proposal for National Consensus to participate ITER program ▪

関子 秀樹 ▪

九州大学 応用力学研究所 ▪

HIDEKI ZUSHI ▪

RIAM Kyushu University ▪

zushi@triam.kyushu-u.ac.jp

ITER 計画がようやく建設へむけてスタートする運びとなった。これまで、研究者間では ITER にとどまらず関連する BA 活動に向けても、“いかに参画するか”という点について議論がされてきた。例えば、ITPA 活動の活性化、ネットワークでの情報交換、学会での若手シンポジウム等々様々なレベルと協力のもと議論され、核融合フォーラムや学会誌上で意見集約が行われている。議論の中心は国内研究所、大学、企業の研究者・技術者であり、どちらかといえば“身内の参加”意見にとどまっている。

ITER 計画は国際的に関心をよんでいる一大プロジェクトで有るだけでなく、建設 10 年、実験 10-20 年の長期プロジェクトであり、その間には絶えない国民からの支持・支援やこの分野の研究に夢を感じて飛び込んでくる学生諸君などが是非とも必要であり、社会と直接の接点を有する大学での役割は大きい。

ITER 計画に向けて極内組織が立ち上がる時期に、“身内の参加”にとどまらない、国民的な“より幅広い参加と参加意識”を形成するために必要な原則は何かということについて提言してみたい。例を宇宙計画にとって、なぜあれほど国民的関心と支持、さらには大手企業にとどまらず中小企業の組織化が大々的に行われているか考えてみると、次のような原則が浮かび上がってくる。

- 1) 参加者を前歴によらず公募する
- 2) 国民から広く実験テーマを募集する
- 3) 宇宙と交信し“その場”体験を共有する
- 4) 大学と中小専門企業が幅広く連携し、宇宙事業の裾野を支える。

これらの透明・公開・共有・連携の原則は ITER 計画にも取り入れることが可能では無いだろうか？ 研究者の参加という“狭い視野”と枠のもとで専門家チームを選出するのではなく、日本チームを広く公募し、国民的関心のもとに国際チームの中心を担っていくべきと考えている。